



児童養護施設 岡崎平和学園 2020 (令和2) 年4月1日新築移転

施設は、新しい社会的養育ビジョンの方針を受けて、大規模施設での集団的養育から地域に分散した小規模な施設で、家庭的な環境による支援が求められています。施設の移転・新築を機に、本体と地域小規模両施設で連携して家庭的な養育に取り組んでいる岡崎平和学園を紹介します。(施設長・小笠原 寛)



【施設概要】

設立：1953 (昭和28) 年 所在地：岡崎市国正町字下川田12番地
土地：4687.88㎡ (延床：1802.29㎡)
定員：48人 (本園36人、分園12人) 対象年齢：概ね2～18歳
本体施設：小規模グループケア (6ホーム：各ホーム6人)、管理棟、地域交流棟
地域小規模児童養護施設：岡崎市丸山町内
ひだまり (6人) =2008 (平成20) 年開園、丸山寮 (6人) =2012 (平成24) 年開園
その他：子育て短期支援事業 (受託事業)

【移転・建設の背景】

旧学園 (岡崎市大西町内) は、開園から60年以上経過し、子どもたちの生活する建物の老朽化や耐震化の問題等から、建て直すことが必要となりました。そして、旧学園は乙川沿いに立地しており、台風など大雨の影響で川が氾濫し、災害に見舞われることもあり、その場所での建て直しは非常に困難であるという見解に達し、新たな土地に、学園を移転・建設することとなりました。

【移転・建設の経緯】

2011 (平成23) 年 「社会的養護の課題と将来像」 上川前園長の頃より、家庭的養護推進計画を策定し、学園移転・建設計画スタート
2016 (平成28) 年 新たな土地 (岡崎市国正町) の取得
2017 (平成29) 年 小笠原寛が施設長に就任
「新しい社会的養育ビジョン」施設の多機能化・高機能化、小規模化・地域分散化
・家庭養育優先の原則 → 移転・建設計画を一部見直し

【小規模化と地域分散化の取り組み】

本園と地域小規模児童養護施設は、1ホームに6人の子どもたちが生活する「1つの家」として小規模化をすすめることができています。

地域分散化は、2008年に「ひだまり」、2012年に「丸山寮」の2カ所を地域小規模児童養護施設として開園しています。本園と地域小規模児童養護施設とは、車で30分ぐらいの距離があります。少し距離ありますが、本園とのつながりを大切にしています。そのため、職員間での情報交換ができる環境作りとして、本園と地域小規模児童養護施設とのICT化にも取り組んでいます。

開園以来、子どもたちが学校に行くときに、地域の方から「行ってらっしゃい!」と温かな声をかけてもらっています。

小規模化と地域分散化は、「職員がチームとなって、地域の方々にも協力していただき、どのように、子どもたちを支えていくか?」という挑戦であると感じています。



ひだまり



丸山寮



新しい岡崎平和学園とは、どんな場所?

～5つのポイントから～



① 伝統・文化を引き継いだ場所

以前は、大舎の形態をとっていました。大舎制にも、良い面はたくさんありました。例えば、大家族という雰囲気子どもたちと職員が、みんなで協力して生活をしていました。そして、運動が盛んで、みんなで切磋琢磨しながら成長していました。職員間の連携もスムーズ行うことができ、職員の育成にも有意義な形態でした。

移転・建設計画がスタートした時のコンセプトとして、大舎制の良い伝統・文化を引き継いだ小規模化・家庭的な環境にというコンセプトでした。そして、「地域小規模児童養護施設の実践と課題に対する取り組み(岡崎平和学園):朋8号参照」も生かした形につなげようと試みました。

これまで培った支援・養育の知見・経験を引継ぎ、子どもたちが安心・安全に生活でき、子どもたちも職員も助け合い、成長し合える場所を作ろうと考えました。

② 家庭的な雰囲気を感じられる場所

新しい平和学園は、子ども6人と職員で「1つの家」を作るようなイメージです。当たり前のことかもしれませんが、その家では、キッチンで料理を作ったり、リビングでテレビを見たり、ゆっくりとお風呂に入るなど、以前の施設より、家庭的な雰囲気が漂っています。

国も施設は、「できる限り良好な家庭的環境と機能」を有することとしています。家庭的な環境とは、形も重要ですが、そこで暮らす子どもと職員が、毎日の生活をどのように育むかということが重要です。平和学園らしい「新しい家」が、それぞれのホームで個性を出して作られています。

③ 1人ひとりが大切にされる場所

以前は、1つの部屋に2、3人の子どもたちが生活していました。小学生以上の子は、概ね個室『自分の部屋』があります。みんなで生活しますが、時には、自分1人になる時間も必要です。1人になって考えごとをしたり、ボーとしていたり、自分自身と向き合うことができる時間になると思います。

1人でゆっくり過ごせる部屋も必要ですが、ずっと自分の部屋に閉じこもってはいけません。仲間と会いたくなったら、自然豊かな風景が見え、温かい日差しのあたるリビングがあります。

1人ひとりが大切にされる場所とは、自分としての個人が大切にされ、お互いに助け合っていくことができる場所だと思えます。平和学園は、そんな思いが溢れている場所になります。

④ のびのびと成長できる場所

幼児さんには、専用の大きなテラスがあります。グラウンドには、スポーツができる場所と遊具のある場所があります。そして、雨天時の運動や地域やボランティアの方々との交流場としての地域交流棟があります。

以前の施設よりグラウンドは狭くなりましたが、工夫をこらして、さまざまな遊びや運動ができるようにしています。

遊びや運動の中で、子どもたちは、さまざまなことを学び、吸収しています。これからも、子どもたちが笑顔で、のびのびと成長していける場所を作っていきます。

⑤ これからの時代へ対応できる場所

新しい社会的養育ビジョンにより、これからの在り方として、高機能化及び多機能化・機能転換も示されました。高機能化として、より専門性が高い養育が求められ、一時保護所機能や里親支援機能強化も求められています。

管理棟や各ホームの活用方法によっては、対応が可能な構造となっています。そのため、さらなる人材確保と育成に努めていきたいと思えます。

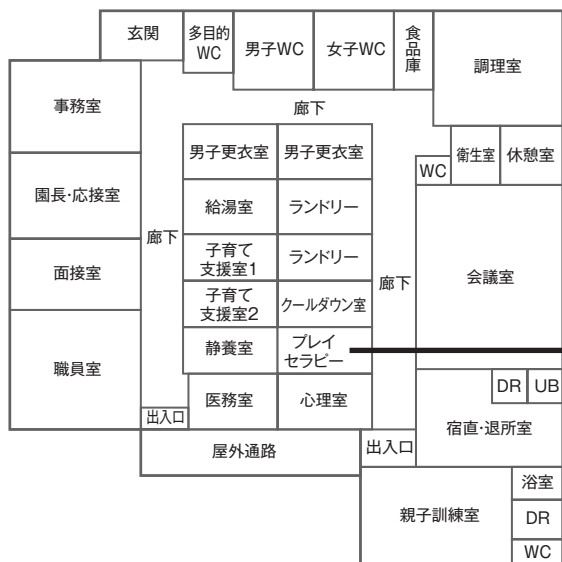
ただ、忘れてはいけないことは、これからの時代を作っていくのは、施設ではありません。子どもたち自身です。体制や形態だけにこだわらず、今を生きる子どもたちの可能性を十分に発揮できる場所でありたいと今後も子どもたち・職員一丸で努力して参ります。





管理棟

園長室、職員室、事務室のほか、親子訓練室や子育て支援室、心理室があり、早期かつ適切な家庭復帰支援を目指しています。また退所室は、自立支援もサポートしています。調理室では、食事の下ごしらえを行い、各ホームに届けています。各ホームの食事作りの負担軽減のねらいがあります。会議室は、各ホームが連携して子どもたちの支援をおこなえるように、各種会議や情報交換の場となっています。

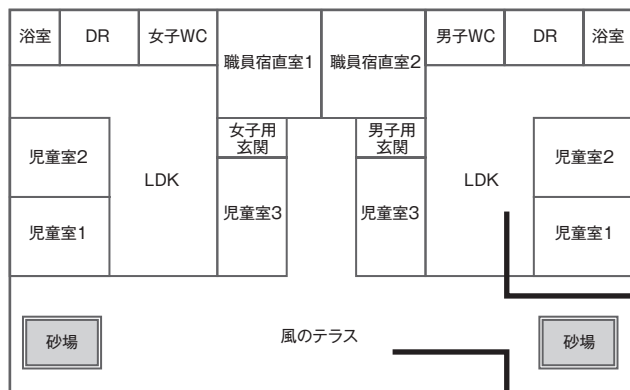


【心理療法支援】

心理室・プレイセラピー室があります。カウンセリング、SST、学習支援など、子どもたちに合わせた多面的な支援を行っています。

幼児ホーム
【6人×2ホーム】

2歳～小学校低学年の男子(星ホーム)と女子(月ホーム)で平屋建の家が2つあります。幼児さんが生活しやすいようにトイレを低くしたり、リビングと児童室をつなげることができ、広々とした空間でのびのびと過ごせるようになっています。



【お洗濯】

各ホームでお洗濯をします。休日には、子どもたちも一緒に洗濯物を干します。洗濯物をしまう時、「気持ちいいね」と子どもたちのうれしそうな声があります。



【リビング】

平屋建ての良さを生かして、職員の目配りもしやすい作りです。中心にリビングをおき、みんなで集まりやすい形になっています。リビングには、笑い声が溢れています。



【風のテラス】

幼児ホームの前に「風のテラス」があります。幼児さん専用の遊び場です。雨の日でも遊ぶことができ、走り回ったり、砂遊びをしたり、開放的な遊び場です。





地域交流棟

ボランティア・地域の方との交流の場として、地域交流棟があります。雨の日には子どもたちも卓球やバドミントン等をして遊んでいます。建物の耐震強化も行き、一時避難所としての機能も備えています。地域に根づいた平和学園を目指しています。



児童ホーム 【6人×4ホーム】

小学校低学年～高校生の児童が生活しています。1階と2階でそれぞれ玄関があり、2世帯住宅のような家（ホーム）です。ホーム同士で助け合いができる造りとなっています。女子2ホーム（花ホームと虹ホーム）、男子2ホーム（海ホームと風ホーム）となっており、それぞれがホームが特色を出し、自分の家と実感できるような居場所作りをしています。

